

小野ゼミがめっちゃ楽しかったから

第6期生 宮田 純

「純くん、ゼミってそんなに楽しいんすか？」

生活の大半をゼミ活動で過ごしていた私に、サークルの後輩がこうつぶやいたことがある。その時は、どうしても恥ずかしくて「うーん、どうだろう。わからない。」とだけ答えたが、本心を語れば「めっちゃ楽しいよー。」である。

正直、ゼミ活動がここまで楽しいとは思わなかった。

自分の大学1,2年時は、バスケットを通して本当にたくさんの友人と出会うことができ、お酒を飲んだり旅行したりと、かなり楽しい毎日を送っていた自信はある。しかし、何かを達成して充実感を得るであったり、寝る時間を惜しんでまで熱中して物事に取り組んだりなどは経験できなかった。その点、小野ゼミでの2年間は本当に充実していた。平日は、毎日のようにグル学に集まって、ケース・メソッドやディベートに向けての話し合いをし、週末は溜まりに溜まった基礎文献や多変量解析のレポートに明け暮れる。大好きだったお酒は気付いたら数週間飲んでいなかったし、同じ大学の彼女と遊ぶこともほとんどなくなっていった。それでも、それがそんなに嫌じゃない。それはなぜかという、答えは簡単。小野ゼミがめっちゃ楽しかったから。

俺は本当に、先輩、後輩そして同期に恵まれていたと思う。自分があれほどグループワークで真剣に意見をぶつけ合い、本番でうまくいったら心から喜び、うまくいかなかったら、本気でキレルほど熱中できたのも皆のおかげだ。勉強だけでなく、フットサルしたりソフトボールしたり、飲み会で大騒ぎしたりオールしたり...思い出がありすぎる。先輩、後輩、同期が本当に素晴らしかったから、俺はこんなにもゼミ活動が楽しかったのだろうなーって思う。

最後に先生には感謝してもしきれません。できの悪い僕は、本当は面倒くさい生徒だったかもしれません。それでも、寝る間を惜しんで、論文の添削をしていただいたり、時には就活や恋愛などの人生相談にも応じていただいたりした先生のことを、僕は一生恩師だと思っています。本当にありがとうございました。

最後に一言。

小野ゼミ最高！！



マケ論メンバー（著者は右から2番目）